



広報くまもと 1965.3 No.177  
 特集 / 農地集団化の周辺

目次

▲特集・農地集団化の周辺▼

□近代農業への布石……………8

□農地集団化のために……………大田遼一郎 14

☆随想☆

□神納の紙器・松下 博 □アメリカの市民たち・吉崎モトエ □民謡偶感・木村祐章

▲第一線の人びと▼

□土壌ドクター▲県農業試験場職員……………25

☆座談会☆

▲出席者▼ 大和忠三・坂本 常人・増田義孝 森木國彦・岡本きみえ・杉本 泉

農地集団化をめぐる諸問題……………26

ル 村の記録

須恵村・岱明村

矢部町・五和町・七城村

資料 ■農地集団化をめぐる諸問題……………31

1. 農道

2. 農業機械化

3. 構造改善事業

4. 果樹振興

5. 集団桑園

6. 生活改善ほか

☆グラフィック☆

■農試の顔

■第一線の人びと

■県政ハイライトほか

■近代農業のための基盤づくり

■新産業風土記▲花卉▼

☆表紙写真・甲佐町のは場整備作業

☆センターカラー・天草郡大野島の花弁栽培



上・作物の病害虫の生態や防除法の研究



上・麦の奨励品種の選定や品質改善も……



気象観測は、作付技術の分析でも大切な要素



上・農業機械の改良研究・コンバインによるテスト

### 作付技術の体系を

—— 県農業試験場 ——

熊本と川尻の間の国道筋に、青いほ場やビニールハウスの隊列に囲まれて県の農業試験場がある。さる昭和三十一年に移転新築されたから施設や組織も一段と充実してきた。農業構造改善事業、農業の機械化、集団化等々県農業が一つの転機に立っているこの頃、試験場の果す役割も自ずから重要になってきた。事業の主体をなすものは作付技術体系の確立だが、県下の地域性に適応した試験研究が立体的に行なわれている。

場内の機構は、本場のもとに、八代支場、阿蘇、球磨、矢部の分場がある。本場では主要農作物の優良品種を選定したり、品質改善、増殖配付や機械化による省力多収栽培技術研究を行う作物部。それに農作物の病害虫の生態や防除法などの研究をする病虫害部。農業機械の改良開発などの研究をする機械部。そまの栽培や品種の試験研究をする園芸部。畑地の地力保全のための調査研究を行なう化学部など、試験場の仕事は多岐にわたっている。

地域的な試験研究としては、八代支場でのい草の研究、そまのハウス栽培の研究。阿蘇分場での主畜営農試験、牧野改良、高冷地そまの試験。球磨、矢部分場の地域性に応じた各種試験などがあり地域営農発展の基礎的データーをきつてきている。